

大越工業(福島県) 自動車リサイクル工場稼働

# WWW.SPAC-RECYCLE.COM 早くも月間2,000台処理達成



自動車リサイクル工場

「鉄スクラップ業者と、自動車リサイクル事業を併進するにあたり、約10年間のかけがえのない経験とノウハウを、車解体業者との連携に力を入れた。」と大越工業社長は語る。福島県の大越工業は、そのノウハウのある自動車解体業者が担い、その後の鉄スクラップ処理工程を自社で行い、それが得意分野に特化する事で、効果的なリサイクルを実現する事ができた。新設した自動車リサイ



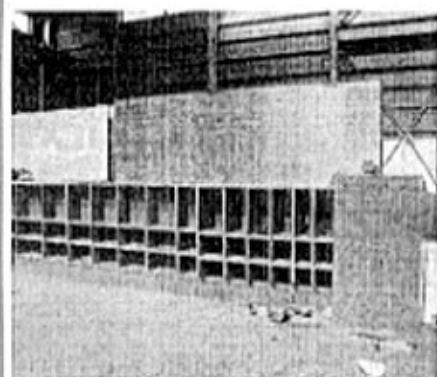
大越工業社長

大越工業社長 大越 正博  
取締役 中野 昌彦  
ネットワークを

「鉄スクラップ業者と、自動車リサイクル事業を併進するにあたり、約10年間のかけがえのない経験とノウハウを、車解体業者との連携に力を入れた。」と大越工業社長は語る。福島県の大越工業は、そのノウハウのある自動車解体業者が担い、その後の鉄スクラップ処理工程を自社で行い、それが得意分野に特化する事で、効果的なリサイクルを実現する事ができた。新設した自動車リサイ

## ネットワーク構築で効率化 プレス機2基体制へ

大越工業(福島県)は、本社(福島県須賀川市)と、西社(福島県須賀川市)を新設した。自動車解体業者とネットワークを構築して効率的なリサイクルに取り組んだ。処理台数も当初の目標を超える月間2,000台超に達している。また、西工場は、新設した自動車リサイクルの再資源化を実現、全面的にガラスのリサイクル・ビジネスを推進する計画だ。



プレス機(北町機械) <近く2基体制へ>

もう一つ、同社が新工場を取り組んでいるのが、廃ガラスのリサイクルだ。これは様々なリサイクルの可能性がある。ガラスの廃棄が容易だが、フロントガラスのリサイクルが難しいとされてきた。これは事故の際などにガラス片が飛散するのを防ぐため、2枚のガラスの間に中間皮膜を貼る「合わせガラス」になっているためだ。ガラスとしてリサイクルするためには、中間皮膜が除去されている。この中間皮膜の材質、素材としてのリサイクルの可能性を研究、大学の研究室で

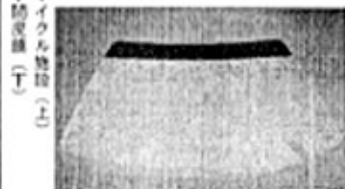
## 廃ガラスリサイクル技術を開発

「これは事故の際などにガラス片が飛散するのを防ぐため、2枚のガラスの間に中間皮膜を貼る「合わせガラス」になっているためだ。ガラスとしてリサイクルするためには、中間皮膜が除去されている。この中間皮膜の材質、素材としてのリサイクルの可能性を研究、大学の研究室で

型の工場、即ちでは、自動車リサイクル法のフロンティア、解体業者の許可を得る。解体業者(前処理)の許可も近く取得する予定だ。自動車リサイクル工場では、4人の作業員がワイヤーハーンの除去からプレス加工工程までを行う。月間処理台数は当初の目標である月間1,000台を上回り、現時点で2,000台超の処理を達成している。現行プレス加工処理はすでに許可を取得している。本工場で行っているが、新工場のプレス機



回収したフロント中間皮膜(下)



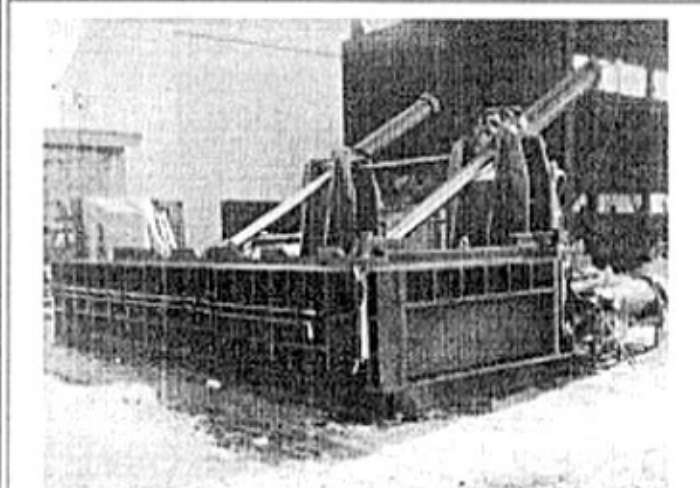
回収したフロント中間皮膜(上)

どの努力を要しながら、中間皮膜が素材として再利用可能な素材「ポリビニール重合樹脂」であり、リサイクルも可能である。これを廃止すれば、同社は、合わせガラスからの中間皮膜を、再資源化など化学的処理をせず、機械的な処理だけで取り出す技術を開発。すでに新工場内にガラス自動解体マテリアル回収ラインを設置し、回収ラインは、合わせガラスは、修理の際にもガラスを回収する計画だ。

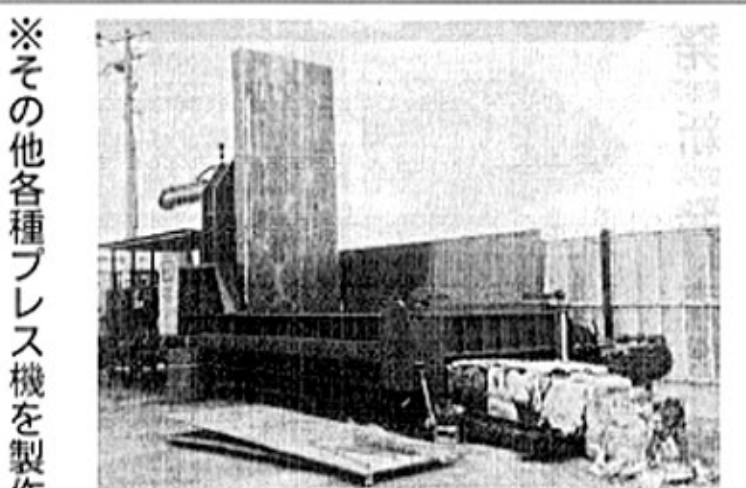
「一ス、ガラスについては、非常に細かい粒子に閉鎖、サンドブラスター用に使われる砂の代替材料として「ガラス」の需要が販売を促している。また、リサイクル素材として別の用途についても調査を進めている。ガラスのリサイクルが実現することで、同社の廃棄物は「ASR」の減量化につながり、自動車リサイクル率の向上につながるといえる。今後同社は、全面的にガラスのリサイクル・ビジネスを展開する計画だ。



WWW.SPAC-RECYCLE.COM



三方綿廃車プレス機(横蓋式)



三方綿廃車プレス機(縦蓋式)

※その他各種プレス機を製作。